

III. 研究のまとめ

1. 研究の成果

- 発表ノートや Power Point 等の活用により自分の考えを構造化して表現する力や、相手を意識したプレゼンテーション能力が向上した。
- 大阪市教育研究会視聴覚部作成の情報活用能力一覧表を基に、本校独自の ICT 活用データを作成することで、系統立てた情報活用能力習得の土台を築くことができた。
- 児童が自らの状態を把握し、自分に合った学習方法や進度を選択できる学習形態を導入することで、児童が自らの学びを調整する力が育ちつつある。
- ICT を活用して他者参照がいつでも可能となったことで、友だちの考えを参考に自分の思考を広げ、前向きに学習に取り組む姿が多く見られた。

2. 今後の課題

- 学習者用端末での他者参照は活発に行われたものの、画面上の確認で終わり、対話や深い思考の交流にまで至らない場面が見られた。今後は、主体的・対話的で深い学びを促すため、交流の質を高める方法を検討する必要がある。
- 他者参照を単なる模倣で終わらせず、それをもとに自分の考えを形成・深化させるため、協働的な学びを支える ICT の効果的な活用方法をさらに探究する必要がある。
- 課題解決に向けて、自分に合った学習方法や進度で学べる機会を保障するため、従来の教え込み型の授業から、児童主体の授業づくりへの転換を図る必要がある。そのためには、指導者の意識改革も必要である。